

横浜市議員



月刊・伊藤ひろたかの 1分でわかる市政レポート

伊藤ひろたか事務所 〒226-0003 緑区鴨居3-3-2 川端ビル1F ホームページ: <http://hiro-chan.net>
TEL&FAX 935-7850 e-mail: voice@hiro-chan.net(PC) hero1001@ezweb.ne.jp(携帯)

議員提案条例で活発な議論を！

昨年12月の議会において、ネーミングライツ条例と市長退職金条例の2本の条例を提案しました。ネーミングライツ条例では日産スタジアムの契約更改を機に、議会が関与する道を模索。市長退職金条例では、議会の議決を経た上で退職金を支払うことを求めました。2条例とも結果は持ち越しとなり、これから始まる2月議会で審議です。

今 回、提案した退職金条例は『市長の退職金の支払いに当たっては、議会が議決し、特別な場合は減額できる』とする内容です。

退 職金条例を提案した理由は、現行では議会の議決なく、「自動的に」退職金が支払われるからです。そのため、昨年、前市長があのような形で辞めた際に、多くの方から「なぜ、退職金を支払うのか」と聞かれても、私たち議員は「決まりだから」としか答えられませんでした。

他 の自治体の退職金支払いルールはどうなっているのでしょうか。私が調べたところ、石川県や目黒区、政令市では京都市や福岡市では、首長の退職金の支払いは議会の議決を経て減額できることになっています。ですから、私たちは退職金条例を提案するに当たっては、これらの自治体の条例に倣いました。ところが…。

「私 たちは中身を分かっている。議場での条例の趣旨説明は不要」（民主党）という理由で、議場で条例の趣旨説明をさせてもらえませんでした。でも、待って下さい！！議場で説明しなければ、市民の方に議論をオープンにしたことになりません。ましてや、他の自治体に事例があることをご存じない議員も実はいたのです。

こ の一件で「趣旨説明できないのは、おかしい」と主張しました。それがキッカケで、その後提出したネーミングライツ条例は議場での趣旨説明が認められました。昨年10月号市政レポートでネーミングライツを取り上げましたように、この間、ずっと関心を持っていたテーマでした。条例の考え方など私が中心となって整理しました。

最 大の壁は地方自治法。実は法律上、ネーミングライツの契約について、議会は直接関与できません。地方自治体の歳入予算に関わる、それも日産スタジアムのように、場合によっては契約金額が億単位になるにも関わらず、です。

当 初はネーミングライツの対象施設、契約金額を議会の議決事項にしようと検討しました。しかし法律上、認められていないものは仕方ありません。方針を転換し、ネーミングライツ契約を結んだ対象施設、名前、契約金額、契約期間を一覧に付すという条例にしました。これにより、議会は直接契約には関われないもの、一定の関与ができるものと考えます。もともと、法律の壁は高く、苦肉の策であることは間違いありません。どれだけの意味があるのかという意見も存在することを付記しておきます。

★学生インターンです、よろしくお願ひします！

2月、3月の2ヶ月間、大学生インターンを3名を引き受けます。これから社会に巣立ち、将来は家庭を築く青年たちに、社会と関わること、世のため、人のために生きるということを考えるキッカケになればという思いで、インターンを引き受けようと考えました。今回は彼らに「学生から見た政治の風景」について率直に語ってもらいました。ぜひ、ご感想をお寄せ下さい。（横浜市会議員 伊藤 ひろたか）

●小林くん（慶大・2年）から見た「政治の風景」（Twitter ID：@hiro0517）

「国会では混乱が生じています。また、小沢幹事長の問題で通常国会が大荒れになりそうです」。このようなニュースを耳にする度に私は、議会と国民の距離がかけ離れてしまっているように感じてなりません。本来ならば、議会において、国民や市民の生活に関わる議論がなされるわけですから、与えられた時間は可及的有効に使われるべきであり、それは国民や市民が望んでいることでもあります。しかし現状では、議会が単なる政争の場となっていて、

ニュースも大抵は予算編成等とは関係のないやり取りの場面ばかりです。もちろん、大多数の政治家が情熱を持って職務を全うしていることと思います。しかし、例え議会の中のほんの一場面だとしても、国民や市民の期待や要望から逸れた議論をすることは不必要だと考えます。このような状況を見て、これからの政治には、国民や市民の気持ちにより近づいた、同じ目線に立った存在になるという本質的な部分での改善が求められていると思います。

●和田くん（明大・2年）から見た「政治の風景」（Twitter ID：@0141g32960x2010）

「20歳になったら、自然と興味を持つでしょ」。中高生の私は政治についてそう決め込んでいた。でも、初めての選挙でも、成人式に参加しても一向に関心を持ってない。もちろん、将来の日本を担う1人として政治にもっと関心を持たなければという義務感を持っているのですが。政治はとても遠い、自分の居場所とは別世界の出来事だと感じている。本来政治は私たち有権者が直接選んだ人々が行い、私たちの生活に多いに影響する身近なものはず。でも、

政治ほど生活に影響を与えない芸能界やスポーツ界の出来事と同じ、むしろそれらより遠いものだと感じてしまう。きっと、スポーツ選手や芸能人は私たちの期待に応えようと真摯に頑張る姿をよく目にするが、政治家は「果たして私たち国民、市民のことを考えているのだろうか。」と、思ってしまう出来事がメディアでは多く取り上げられているからではないでしょうか。だから私は本当の政治の現場を見てみたいと思う。

●宮原さん（東京外大・2年）から見た「政治の風景」（Twitter ID：xxuutanxx）

「政治」の風景と聞いて思い浮かべるものを考えるとき、議会の様子、内閣の様子、選挙の様子、どこかでみたことのある映像しか私には思い浮かばない。思い浮かべるというよりも、新聞やニュースでみたことのある静止画を並べているといった感覚に近いように思う。しかし、「政治」という語を広辞苑でひくと「人間集団における秩序の形成と解体をめぐる、人が他者に対して、また他者とともに行う営み」とある。ダイナミックな生き生きとした動きを伴っている

語であると思った。私が「政治」の風景として思い浮かべたものと、「政治」という語の定義にズレを感じた。私が想像する「政治」はどこか静止画像の、私たちとは遠い世界のものであるが、広辞苑の「政治」は動きが活発で、わたしたちと近いものである。それは、「政治」が私からただ見えにくいだけだからなのか、それとも、実際に動いていないからなのか。それさえもよくわからないのが恥ずかしながらも私の現状である。